



= 元気発信・笑顔の大地  
夢開花 なかがわ =



中川町は、北海道の北部に位置しています。車で、稚内空港から1時間20分、旭川空港からは2時間50分程度の距離です。



町の中央を流れる天塩川とこれに合流する支流に沿って南北に細長く拓けています。地形は山岳地と平野地に大別され、肥沃で農耕に適しています。気候は日本海沿岸型に属し、春は雨が少なく秋に多くなります。また、寒さが厳しく積雪も多いのが特徴で、酪農を主とした農業を基幹産業とする面積：595km<sup>2</sup>、人口約1,800人の小さな町です。

なかがわには、たくさんの遺産があります。

《 自然からの贈り物～母なる大河 天塩川 》

天塩川は、北見山地の天塩岳を源に、多くの支流を集めながら流下して日本海に注ぐ、全国第4位、北海道では第2位の大河です。流域面積5590km<sup>2</sup>、流路延長256kmを誇り、北海道で唯一、北に向かって流れることでも有名です。北海道の「原点」とも言える天塩川は、「北海道遺産」にも選定されています。



《 白亜紀からの贈り物～貴重な化石の数々 》

中川町の白亜紀後期約7,200万年前の地層から、全長約11mの国内最大級のクビナガリュウ全身復元骨格をはじめ、国内初のテリジノサウルスのツメ化石や多くの美しいアンモナイトが展示されています。これらや中川の地質・古生物・歴史・民俗を紹介する「見て・触れて・感じて・楽しめる 自然誌博物館・宿泊型研修体験複合施設 中川町エコミュージアムセンター」があります。



TEL：01656-8-5133 <http://city.hokkai.or.jp/~kubinaga/>

《 歌人 斎藤茂吉からの贈り物～数々の歌 》

昭和3年の夏、歌人「斎藤茂吉」が弟をつれて、中川村志文内診療所（現中川町字共和）の拓殖医をつとめていた「次兄 守谷富太郎」を訪れ、17年ぶりに再会しました。志文内に滞在した5日間に詠まれた歌として、第9歌集『石泉』のなかに57首が収められています。中川町では、文学的足跡を後世に伝えるために斎藤茂吉来町記念歌碑を2基建立して以来、多くの茂吉ファンがこの碑を訪ねて下さるようになり、斎藤茂吉記念短歌フェスティバルを開催しています。



中川町エコミュージアムセンター TEL：01656-8-5133 FAX：01656-8-5134

《 イベント情報 》



天塩川 春・発信 in なかがわ（天塩川の解氷日を当てるクイズ） 1月下旬～3月下旬  
なかがわ雪あかり（雪景色の木立の中に幻想的な光のオブジェが並びます） 2月中旬  
中川町秋味まつり・北海道丸太押し相撲大会 10月上旬

詳しくは、中川町観光協会 01656-7-2117

「下高井戸商店街」とは、9年ほど前からお互いに交流活動を続けています。